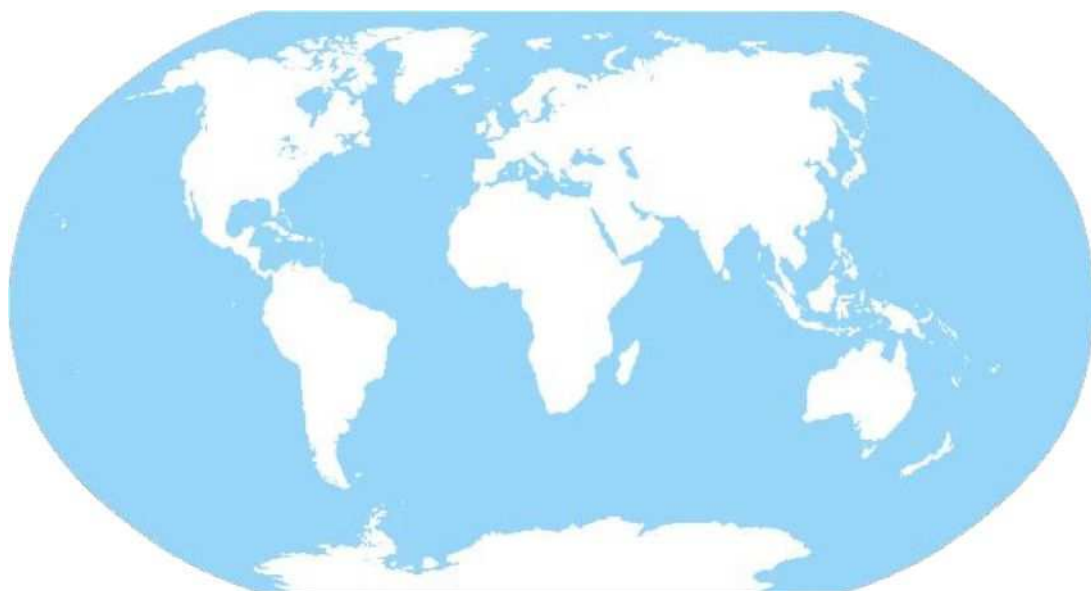


令和6年(2024年)度・令和7年(2025年)度

世界・未来をともに学ぶ

阪大留学生をリソースとした

「国際理解教育」事例



令和8年(2026年)3月

大阪大学国際機構国際教育交流センター

目 次

小学校

- (1) 豊能町立吉川小学校 1

中学校

- (1) 茨木市立三島中学校 5
(2) 茨木市立南中学校 7
(3) 吹田市立第六中学校 9
(4) 豊能町立東能勢中学校 10

高等学校

- (1) 兵庫県立川西北陵高等学校 15
(2) 大阪府立豊中高等学校 18
(3) 関西大倉中学校高等学校 21
(4) 大阪府立茨木高等学校 23

その他

- (1) 社会福祉法人南友会
幼保連携型認定こども園 かんらんこども園 30

- 国際教育交流センター留学生支援部門における
地域の国際理解教育支援実績（令和 6 年度） 34
（旧：交流アドバイジング研究チーム）

- 国際教育交流センター留学生支援部門における
地域の国際理解教育支援実績（令和 7 年度） 35

本冊子では、掲載許可をいただいた一部の実施校の報告書を紹介しております。

国際理解教育活動報告

豊能町立吉川小学校

(令和7年11月14日実施 5年生)

1. 国際理解教育活動のテーマ

- ・小学生の得意なことを知ってもらおう。
- ・留学生の国・地域のことを教えてもらおう。

2. 目標・ねらい

本校の小学生が、日本に留学している大学生と共に過ごし、英語の授業で学習したことを生かし、英語を使って積極的にコミュニケーションを図る機会とする。また留学生と交流する中で、日本の文化と他国の文化の違いに気づき、他国の文化を尊重するとともに、日本の文化に対して誇りを持ち、そして海外への興味関心を高め、グローバルな視野をもつ児童の育成の礎とする。

3. 派遣留学生への要請内容(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

使用言語:英語

国・地域の検討:特に特定の国・地域の要請は行っておりません。

依頼内容:留学生の母国語でのあいさつの仕方、じゃんけんの仕方、文化・食べ物・観光名所等の紹介を依頼しました。

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

- ・プログラムの内容
- ・留学生が準備しておくこと
- ・写真撮影・服装等の注意事項
- ・当日の集合場所・時刻

5. 児童の予備学習の内容

- ・留学生と初めてお会いした時の挨拶
- ・I can～ .I like～ .などの言い方で自分の得意なことや好きなことを伝える学習

6. 当日の内容

(1)学習活動の概要

- ・開会のあいさつ
- ・留学生の母国語でのじゃんけんキング&クイーン(アイスブレイキング)
- ・小グループでの自己紹介
- ・小学生が得意なことの紹介
- ・留学生の出身国・地域の紹介
- ・小学生・留学生によるお互いの感想交流

・閉会のあいさつ

(2) 当日展開した内容で特筆すべきこと

留学生の方が積極的に声をかけてくださり、児童は知っている英語を使って楽しくコミュニケーションをとることができていた。

7. 学習活動後の成果と課題

【成果】

児童から、授業で学習している英語を実際を使って外国の方とコミュニケーションをとれてうれしかったという感想があった。英語を実践として使える貴重な機会になり、児童の自信につながっていた。

【課題】

簡単な英語を使って話してもらえると、さらに児童が留学生の方の話を聞き取りやすかったように思う。

8. 国際教育交流センター、大学側への助言、要請および希望

児童にとって貴重なよい経験になりました。留学生の方々が積極的に優しく接してくださり、児童は英語でのコミュニケーションを楽しむことができました。実践で得た経験をこれからの学習にいかしていきたいと思えます。

国際理解教育活動報告

豊能町立吉川小学校

(令和7年11月14日実施 6年生)

1. 国際理解教育活動のテーマ

- ・小学生の行ってみたい国を知ってもらおう。
- ・留学生の国・地域のことを教えてもらおう。

2. 目標・ねらい

本校の小学生が、日本に留学している大学生と共に過ごし、英語の授業で学習したことを生かし、英語を使って積極的にコミュニケーションを図る機会とする。また留学生と交流する中で、日本の文化と他国の文化の違いに気づき、他国の文化を尊重するとともに、日本の文化に対して誇りを持ち、そして海外への興味関心を高め、グローバルな視野をもつ児童の育成の礎とする。

3. 派遣留学生への要請内容(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

使用言語:英語

国・地域の検討:特に特定の国・地域の要請は行っておりません。

依頼内容:留学生の母国語でのあいさつの仕方、じゃんけんの仕方、文化・食べ物・観光名所等の紹介を依頼しました。

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

- ・プログラムの内容
- ・留学生が準備しておくこと
- ・写真撮影・服装等の注意事項
- ・当日の集合場所・時刻

5. 児童の予備学習の内容

- ・留学生の方とはじめてお会いした時の挨拶の仕方
- ・I want to go to～ / I want to see,visit,watch～などの言い方を使い、行きたい国の魅力を伝えるスピーチの練習
- ・行きたい国についての説明のスライドショー作り

6. 当日の内容

(1)学習活動の概要

- ・開会のあいさつ
- ・留学生の母国語でのじゃんけんキング&クイーン(アイスブレイキング)
- ・小グループでの自己紹介
- ・小学生が行ってみたい国の紹介

- ・留学生の出身国・地域の紹介
- ・小学生・留学生によるお互いの感想交流
- ・閉会のあいさつ

(2) 当日展開した内容で特筆すべきこと

留学生の方が積極的に質問をしたり盛り上げたりしてくださり、児童は楽しく英語でコミュニケーションをとることができていた。

7. 学習活動後の成果と課題

【成果】

児童から、今まで知らなかった国の文化が知れてうれしかったという声があった。色々な国について教えていただきながら、普段学習している英語を実践で使うことができ、児童の自信につながっていた。

【課題】

もう少し簡単な英語で話していただけたら、児童が聞き取れる内容が増えたかもしれない。

8. 国際教育交流センター、大学側への助言、要請および希望

留学生の方が積極的に児童に声をかけてくださり、児童は英語でのコミュニケーションを楽しく実践することができました。それぞれの母国のこともわかりやすく説明してくださり、児童の国際理解につながりました。

国際理解教育活動報告

茨木市立三島中学校
(令和6年11月1日実施)

1. 国際理解教育活動のテーマ

- ・違いを認め合い、すべての子どもたちが、自信をもち、安心して過ごせるように

2. 目標・ねらい

- ・外国の文化・習慣にふれ、興味をもち、違いを認め合う心を養う。

3. 派遣留学生への要請内容(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

- ・日常会話で日本語が話せる人と英語で日常会話が話せる人
- ・可能ならシリア・フィリピン・中国・韓国・オーストラリア・イギリスなど子どものルーツと同じ国の方がいたらお願いしたい。

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

- ・自己紹介のときに、自分の国の場所や文化、スポーツなど紹介してほしい。また、パワーポイントを用意してほしいことを伝える。活動的な内容があると子どもたちが喜ぶので、可能ならゲームなどの用意をお願いした。
- ・当日の待ち合わせ場所の確認、授業の交流の流れと、内容について確認。
- ・パソコンは、持ってきてもらうならタイプ C、HDMI でつながるもの SD カードにデータを入れてもらうか、もしくは、事前にメールでデータを添付して送っていただくかお願いした。
- ・謝礼は一人 5000 円現金。手渡しは交通費込み。現金を受け取った際に、領収書にサインをほしい。
- ・当日、教師がとった写真は、校内のプリントに使わせてもらうけど、大丈夫か確認。

5. 生徒の予備学習の内容

- ・前回に 1 時間ほど、世界の文化についてのクイズをおこない、来てくれる留学生の国の紹介等をおこない、質問したいことなどを考えた。
- ・子どもたちが、留学生の国の言葉を調べて、挨拶ができるように練習する場面もあった。

6. 当日の内容

(1) 学習活動の概要

- ・自己紹介・自国についての地理・文化などの紹介をパワポでおこなう
- ・日本での生活について(よかった経験と困った経験)
- ・中学生からの質問
- ・中学生へ共に安心して過ごしていくために大切にしたいこと

(2) 当日展開した内容で特筆すべきこと

- ・特にはありません。みなさん、自分の国のことを動画や画像を使って、わかりやすく伝えてくれました。

7. 学習活動後の成果と課題

成果

・子どもたちが興味をもって留学生とかかわり、「楽しかった」「学びになった」「自分の知らないことを知りたい」というプラスの出会いができ、これから学習する多文化共生学習の導入として、いい経験になった。

課題

・日本での生活で困っていることなども聞くことで、今後の多文化共生学習の「周りや自分の中にある偏見に気づき、社会的課題に気づく」というところにもつなげたい思いがあったが、最初の文化の紹介で 1 時間終わってしまうクラスもあった。

8. 国際教育交流センター、大学側への助言、要請および希望

・茨木市のネットのフィルタリングの関係で、メールに添付してもらったグーグルドライブなどが見れなかったため、自宅のパソコンを介してデータをもらう必要があり、IRIS の担当者の方に何回も手間をかけてしまった。

・また当日、留学生が持ってきてくれたパソコンでは大型テレビがうつらなかったので、急遽データをもらって、学校のパソコンでうつすことになった。

国際理解教育活動報告

茨木市立南中学校
(令和6年11月13日実施)

1. 国際理解教育活動のテーマ

「国際理解を深める・多文化共生の推進」

2. 目標・ねらい

- ① 外国の文化・習慣に触れることで、異なる文化・習慣・考え方の人との違いを認め合う心と、共に生活しようする姿勢を育む。
- ② 自分にとっての当たり前が違っていても、自分の価値観を押し付けず、相手を尊重する姿勢を育む。
- ③ 自分のルーツに誇りを持ち、互いのルーツを認め合い、活かす姿勢を育む。
- ④ 同じ地域で安心して生活していくために、共に地域での生活ルールを考え、守る姿勢を育む。

3. 派遣留学生への要請内容(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

主な交流言語 : 日本語 or 英語(日常会話レベル)

国・地域の検討 : できるだけ異なる国

依頼内容 : 自己紹介、出身国・地域の文化や遊びなどについてパワーポイントを作成すること。
遊びやゲームなどの“活動”を盛り込んだ15分程度の発表を依頼。

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

- ① 当日の流れ・スケジュールの確認。
- ② 待ち合わせ時間・場所の確認。
- ③ 当日必要な持ち物と中学校で必要な準備物の確認。
- ④ 発表データの受け渡しについての確認。

5. 生徒の予備学習の内容

【南中学校 多文化共生学習】

- 第1時 世界びっくり習慣クイズ
- 第2時 異文化コミュニケーションゲーム「バーンガ」
- 第3時 異文化に出会う「レヌカの学び」
- 第4時 日本文化の紹介・交流に向けて(紹介する文化・遊びの検討)
- 第5・6時 国際理解学習交流会

6. 当日の内容

(1) 学習活動の概要

- 留学生歓迎セレモニー(体育館にて)
- 留学生より自己紹介・パワーポイントによる発表(各教室にて)

- 日本文化・遊びの交流

(2) 当日展開した内容で特筆すべきこと

- 歓迎セレモニーでは、中学校文化祭で発表した合唱曲を披露した。
- 留学生の方の発表から、文化の違いを知り、生徒の驚く様子が見られた。
- 留学生の方が用意してくれたゲームや遊びには、生徒たちは興味を持って積極的に参加していた。
- 各クラス、それぞれ2つずつ日本文化や遊びの発表・交流を行った。留学生の方が喜んでくださっている姿を見て、生徒たちも生き生きとした顔をしていた。

7. 学習活動後の成果と課題

成果

- ・日本とは違う食文化、伝統、遊びなどをその国の方から直接お話を聞くことで、より具体的に実感し、学ぶことができた。
- ・文化交流を通して、様々な価値観や考え方を知ることができた。
- ・留学生をお迎えするにあたって、相手のことを思い、考える姿勢が見られた。

課題

- ・中学生側の事前準備が不十分だった。そのため、留学生の発表に対しての生徒からの質問がほとんど出てこなかった。留学生の方々の各クラス割り当てを素早く行い、それぞれの国の文化調べの時間を設けることで、より興味を持って取り組めたと思う。

8. 国際教育交流センター、大学側への助言、要請および希望

5名の留学生の方にはとてもよくしていただきました。留学生の方のパワーポイントのクオリティが高かったことと常に笑顔で接していただいたことがとてもよかったです。

言葉の壁があってもその姿勢が生徒に伝わっていました。

国際理解教育活動報告

吹田市立第六中学校
(令和6年11月29日実施)

1. 国際理解教育活動のテーマ

グローバルな視野に立ち、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力を育成する。

2. 目標・ねらい

留学生との交流を通し、それぞれの国について学ぶことで、国際理解を深める知識を実現のものとして学ぶ。

3. 派遣留学生への要請内容(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

使用言語:日本語(英語) 国・地域:できるだけ異なる国や地域

依頼内容:留学生の出身国の地理、歴史、文化などのプレゼンテーションをしていただく。

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

- ・使用言語と当日のスケジュールの確認
- ・プレゼンテーションに関する要望(各教室で、p.p.を使用する)
- ・自己紹介/出身国の紹介(地理、歴史、文化、習慣など)
- ・クイズ/ゲームなど
- ・ご自身の留学について

5. 生徒の予備学習の内容

留学生の出身国について、調べ学習をしている。

6. 当日の内容

(1)学習活動の概要

各クラス、留学生のプレゼンテーションを聞き、そのあと生徒から留学生に質問をおこなった。

クイズをしたクラスもある。

(2)当日展開した内容で特筆すべきこと

なし

7. 学習活動後の成果と課題

生徒たちは、留学生のプレゼンテーションを通して、それぞれの国のことに興味をもって学ぶことができた。クイズも楽しく参加できた。留学生と交流できたことで、国際理解を深める経験ができた。

8. 国際教育交流センター、大学側への助言、要請および希望

なし

国際理解教育活動報告

豊能町立東能勢中学校
(令和6年12月6日実施)

1. 国際理解教育活動のテーマ

『Cultural Exchange～文化交流を通して世界を見る～』

2. 目標・ねらい

- ①留学生とともに互いの文化を交流し、外国の文化・風習・習慣に触れ、外国への興味・関心を持たせる。
- ②外国について知ることで、日本の文化や自分たちの生活について見つめ直し、将来にわたって生き方を考えていく上での視野を広げる一助とする。
- ③写真や実物を見せながら豊能町にまつわるものを Show&Tell で留学生に紹介し、これまでに学習した英語を実際に使うことで、コミュニケーションのための道具である英語を実感する機会とする。

3. 派遣留学生への要請内容

- ①使用言語: 英語を中心とするが、少しは日本語のわかる方
・生徒との交流は英語&日本語で行う。
- ②構成: 班の数に合わせて、4ヶ国4名の方
・できればいろいろな地域の方が望ましい。
- ③準備: 出身国の文化を紹介していただける方
・文化の紹介については、何か見せていただける写真や地図、実物などがあれば準備していただく
・出身国や地域にまつわる遊びを一つ企画していただく。

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

11月18日(月)16時50分～17時20分 IRISにて
当日の交流のタイムスケジュール、内容の詳細や準備物などについて打ち合わせを行った。

5. 生徒の予備学習の内容

1時間目: 事前学習① 11月14日(金) 5限【総合】

〈テーマ〉

英語でのコミュニケーションとは

〈ねらい〉

難しい単語を使わなくても、英語でコミュニケーションを取ることが可能だということを知る。

〈流れ〉

1分程度の動画を見て、ペアに内容を指定された単語のみで伝える。

目的: 簡単な単語とジェスチャーや伝えようとする気持ちがあれば、コミュニケーションを取ることが可能だということ学ぶ。

取組み内容と趣旨説明

2時間目: 事前学習② 11月20日(水) 6限【総合】

- ① 実行委員を決める。6名
- ② 班で豊能町にまつわる留学生に紹介したいものを決める。
- ③ 紹介するものについて調べる。(宿題)

3時間目:事前学習③ 11月21日(木) 6限【総合】

- ① 留学生とどのような遊びをするか案を出し合う。 司会:実行委員
- ② 発表原稿・パワーポイントを作成する。

【スライド】

- ・ゲージスライドで作成する。

【原稿】

- ・添削は英語科教員が担当する。

昼休みなどに実行委員を集めて遊び、役割分担(司会・挨拶)を決める

4時間目:事前学習④ 11月22日(金) 6限【総合】

- ① 留学生とする遊びを発表する。 司会:実行委員
- ② 留学生とする遊びの英語の説明を班で考える。
- ③ 実演練習

5時間目:事前学習⑤ 12月4日(水) 6限【総合】

リハーサル

- ① 各班の発表を全体で聞く。
ALT から、発表に関するアドバイスをもらって、最終調整をする。

6. 当日の内容

(1)学習活動の概要

12月6日(金)5・6限 派遣留学生の出身国
イギリス、台湾、インドネシア、フィンランド

学習活動の概要

13:00

留学生来校⇒昼休み中だったため、校内を案内した。国際理解学習を行う学年以外の生徒とも交流することができた。

13:40

代表生徒のあいさつ
本日の目的と流れの確認
留学生(4名)の自己紹介
留学生…各班へ移動

13:50

アイスブレイク(ビンゴ)
中学生より、自己紹介と豊能町の紹介

【発表】

- ・各班1つのテーマについて発表する。 EX)とよのん、妙見山、おすすめのレストラン
- ・発表時間は5分 その後、留学生からの質疑応答の時間を3分とる。
- ・英語で発表する。
- ・スライドを使用して発表する。

14:10

留学生より、出身国や地域の文化紹介
質疑応答など、コミュニケーションタイム

14:30

休憩(体育館に移動)

14:40

中学生によるレクリエーション

- ① 各班からルール説明
- ② だるまさんが転んだ、伝言ゲーム

留学生によるレクリエーション(各班で留学生が準備した遊びを行った。)

15:20

代表生徒あいさつ

留学生あいさつ

記念撮影

15:30

教室に戻り、google フォームでのふり返り

(2) 当日展開した内容で特筆すべきこと

留学生による出身国地域の文化紹介の際、パワーポイントの作成を依頼した。データは事前にメールで送っていただき、本校のタブレットを準備した。そのため、留学生に電子機器を持ってきていただく必要がなかった。

(3) 別紙資料(写真等)

《活動の様子》参照

7. 学習活動後の成果と課題

《国際理解学習からの視点》

●都心部から離れた農村地域ということもあり、日常生活において外国の方や地域外の方と接する機会がほとんどないため、交流前は未知の怖さによる不安を抱えている生徒もいた。その反面、昨年度、1つ上の学年が交流をしている姿を見ていたこと、休み時間に少し交流させていただいていたおかげで、今年度は自分たちの番だと楽しみにしている様子も見られた。

国際理解学習が始まると、生徒たちは、留学生の人柄と出身国や地域を紹介していただいたプレゼンに魅せられ、大変興味を抱き、前のめりになって話を聞いていた。

今までに、教科書の写真などで他国の文化に触れることはあったが、実際にその文化の中で過ごしてきた留学生の話にはとても説得力があり、文化の違いを前向きに捉える生徒が多かった。

また、留学生からの発表は、クイズ形式になっていたり、動画を見られたりしたため、生徒も興味を持ちやすかった。この交流を通して、生徒たちの視野が広がり、ものの見方や考え方が変わったと感じる。

●豊能町は、過疎・高齢化が進んでいる。

豊能町のめざす子ども像として「豊能町に誇りをもち、自信をもって社会を生き抜く子ども」がある。しかし、現状は、豊能町に誇りをもち子どもは少ないと感じる。

この取組みを事前に説明した際に、豊能町について紹介することを伝えると、「豊能町に紹介するものなどはない」と生徒は言っていた。

そのことを踏まえ、今回は生徒に豊能町の良さを再確認してほしいという思いを込めて、豊能町を留学生に紹介することにした。発表を準備していく中で、豊能町を知らない人に伝えられることがたくさんあることに気づき始め、どのようにすれば留学生に豊能町は良いところだと思ってもらえるかを追求していた。この活動を通して、今まで育ってきた豊能町に少し誇りをもてるようになったように思う。

《英語学習からの視点》

●この取組みを始める前、生徒に「英語を話せると思うか？」と聞いた。ほとんどの生徒が「話せない」と答えた。これまで、英語の授業で何度もスピーチや ALT への即興的なインタビューをして、英語を話せるようになってきている実感が持てるよう取り組んできた。また、現段階で、ALTと意思の疎通が取れているということはすごいことだと何度も伝えてきた。

しかし、それらは評価のための取組みで、環境を整備されていたから話せただけである、という認識で、英語を話せるという成功体験にはつながっていなかった。

発表の取組みも、通常の授業で扱うものと比べて、豊能町を知らない留学生に伝えなくてはならない、せっかく東能勢中学校に来てもらうので、コミュニケーションを取って楽しんでもらいたいという場面設定が効果的であり、知っている単語を少しでも使って留学生とコミュニケーションを取る姿が見られた。

この取組みが終わったあと、再び「英語を話せると思うか？」と聞くと、「なんとなくでも話すことができる。相手の言いたいことがわかった。」と前向きな返答になった。

今まで学習してきた内容を活用できたことが、とても嬉しかったようだ。また、もっと英語を勉強していれば、せっかく仲良くなった留学生と、もっと話せたと思う生徒も多くいた。

その気持ちが今後の英語学習の姿勢につながればと思う。

●伝えたいことが伝わらないもどかしさを、中学生も留学生も感じていたように思う。

その中でも、ジェスチャーを使い、知っている日本語の単語を言って少しでも伝わるように努めていた。

普段、できないことがあれば、諦めてしまう生徒が多いが、今回の交流では、何が何でも伝えようという懸命取り組み姿勢が見られた。苦手なことから逃げてしまいがちな生徒も、留学生のあたたかい対応と、仲良くなりたいという気持ちを感じ、逃げることなく交流することができていた。

留学生が、この交流を前向きに捉えてくださったことが何よりも嬉しく、生徒たちをかわいがってくださり大変感謝しております。

《生徒の感想より一部抜粋》

●違う国の人と交流をして、自分が今まで以上に英語が話せていて驚きました。

●英語を話せるようになりたい。

●人種と文化は関係ない！仲良くしよう。

●自分の喋る英語がほんとうに日本仕様の発音の英語なんだなと思った。本場の英語を聞いたら、知ってる単語でもわからなかったし、もっといっぱい英語を聞いておかないと思った。

●英語が話せなくてもお互いについて知りたい、という思いがあれば国境を越えても通じ合えると知った。それに始まる前は、海外の方が少し怖いなと思っていた。今回のおかげで、そのような気持ちが一切なくなって、海外の方と喋れて良かったなと思った。

●国や生まれが違って、だれとでも話せば仲良くできるのを知って、このような平和な世の中毎日続けばいいのと思った。インドネシアの魅力も教えてもらって、この2時間が楽しかった。

●知らないことを学べて、僕もいつかインドネシアに行ってみたいと思いました。

●きちんとした文法ではなくても留学生の方には伝わっていて、もちろん、きちんとした文法で話すことは大事だけれど、伝えようと努力することがとても大切だと思いました。留学生の方も理解しようとしてくれました。

●あまり英語しゃべれないから、会話とかちゃんとできないんじゃないか、話が續かないかなと思っていたけれど、単語で伝えようとしたらなんとなくは理解してくれていた。聞いてみたかったことも聞けたし、質問もできて楽しかったし、会話ができて、とても嬉しかった。英語を喋れたらいいなとすごく思った。

8. 国際交流センター、大学側への助言、要請および希望

本当に良い機会をいただき、また、大変お世話になり感謝申し上げます。

今後もよろしく願いいたします。

《活動の様子》



国際理解教育活動報告

兵庫県立川西北陵高等学校
(令和6年9月10日実施)

1. 国際理解教育活動のテーマ

各自が紹介したい日本文化を選び、それを約2～3分間の英語で発表する

【本校の特色類型「探究と表現」について】

グローバル社会で求められる「コミュニケーション・プレゼンテーション能力」「異文化理解」「チャレンジ精神」の育成を目的に、1年次から「探究と表現Ⅰ」という総合探究科目を設けており、その授業で今回は「PR Nippon」、日本文化についてのプレゼンテーションを行いました。語学力に加え自己の意見を分かりやすく説明する能力を高めることで、グローバルマインドを育成し、国際社会で活躍できる人材を育てることを目標としています。

2. 目標・ねらい

- ① 英語による日本の文化のプレゼンテーション及びコミュニケーション能力の育成
- ② 日本文化に対して誇りを持ち、外国人の方に発信する力の育成
- ③ 留学生との交流を通して、その方の国に関する理解と異文化理解の促進

3. 派遣留学生への要請内容(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

- 使用言語:英語(日本語能力は問わない)
- 募集人数:8名
- 国・地域:問わない
- 依頼内容:日本の文化プレゼンテーションの審査ならびに講評
:生徒発表に関する全般的な講評
:プレゼンテーション後に行われる小グループでのQ&A(出身国に関する質疑応答)

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

7月24日(水) 16:50から オンラインにて実施

- 本活動の目標・ねらい
- 当日の流れ
- 生徒のプレゼンテーション内容紹介
- 当日の待ち合わせ場所・時間・送迎に関して
- 事務手続き(謝礼金の振り込み方法・振込予定日など)

5. 生徒の予備学習の内容

昨年度年度末 紹介したい日本の文化を選択・日本語原稿の作成

5月上旬 日本語でのプレゼンテーション

6月上旬 英語での発表原稿作成

7月中旬 パワーポイント完成・発表練習
9月3日(火) プレゼンテーション リハーサル
9月10日(火) プレゼンテーション 本番

6. 当日の内容

(1) 学習活動の概要

- ・一人一人が自分の選んだ日本の文化について英語で約3分間程度の発表を行う
- ・発表会後に、7つのグループ(1人の留学生・5人の本校生)に分かれ、その留学生の出身国やその文化や歴史について各自質問を行う。

(2) 当日展開した内容で特筆すべきこと

発表会後に全員の留学生から発表に関して、プレゼンターとして意識すべきことやプレゼンテーションの「コツ」をアドバイスいただきました。また事後の小グループでの交流においては、ご自分の出身国について実物を用いて紹介いただきました。生徒が用意していた質問にも丁寧に答えていただきました。「もっと時間がほしい!」という生徒が多く、豊かな交流の場となりました。

(3) 別紙資料(写真等)



7. 学習活動後の成果と課題

高校生の考える「日本文化」のトピックが、大変多岐にわたって興味深く、「なぜそれが日本文化なのか」について、貴学留学生の皆さんも大変興味を持って聞いて下さり、その着眼点の面白さを留学生の皆さんにも理解していただいたことが最大の成果だと考えております。

8. 国際教育交流センター、大学側への助言、要請および希望

様々な国の留学生を派遣していただいたおかげで、様々な国の方と接することができグローバルな視点で物事に触れる機会を持つことができました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

国際理解教育活動報告

大阪府立豊中高等学校
(令和7年1月17日実施)

1. 国際理解教育活動のテーマ

本校は、現在大阪府から「GLHS(グローバル・リーダーズ・ハイスクール)」に、また、文部科学省からは「SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)」に指定されている。様々な教育活動の中で、英語を用いた研究および発表などを実践しており、そうした活動の一環として、1年生全員9クラス(360名)を対象とし、研究交流及び文化交流を実施した。

2. 目標・ねらい

「研究交流」

「課題研究Ⅰ」の授業においてグループで取り組んでいる研究活動について、英語での発表及び質疑応答ができることを目標とした。

「文化交流」

様々な地域の留学生から、出身国の文化や自身の研究課題について詳しく話を聞き、グローバルな視野を養うこと、また、英語の授業で取り組んでいる発表を留学生に対して行うことによって、より実践的な場で、英語で発表する機会を創出することを目標とした。

3. 派遣留学生への要請内容(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

使用言語については「英語のみ」とし、日本語の会話レベルについては不問とした。また、世界の文化を知るためにも、様々な地域の出身者の来校を希望した。研究交流においては、生徒の発表に対して簡単な質問をすることを依頼した。文化交流においては、自国の文化や自身の大学での研究内容について、Microsoft PowerPoint等で資料を作成し当日提示すること、生徒が実施したゲーム等に参加することを依頼した。

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

令和6年12月13日(金)16時50分より約30分間、当日の流れや謝金の支払い方法について説明し、文化交流におけるプレゼンテーション(10分)の準備を依頼した。また、当日参加するクラスに所属する高校生と事前に交流をし、親睦を図った。

5. 生徒の予備学習の内容

研究交流に向けては「課題研究Ⅰ」の授業において、2学期より授業の中でグループごとに、簡単な研究活動に取り組んだ。また、文化交流に向けて、英語Sの授業で資料作成と発表練習を行い、またLHRを2回利用し、クラス企画の準備を行った。

6. 当日の内容

実施日:令和7年1月17日(金)12:45~15:30

実施形態:豊中駅に集合し、生徒が豊中高校へ引率する。豊中高校の普通教室に生徒が20名入り、留学生1~2人ずつとともに交流した。

参加した留学生数:29名

(1) 学習活動の概要

「研究交流」

生徒を各教室5~6グループに分け、そのうち3グループずつ作成したスライドをもとにプレゼンテーションを行い、留学生が各グループを回る形式とした。

「文化交流」

英語Sの授業で作成した「Guess Who?」ゲームを行い、留学生はそれに参加した。その後、留学生に母国の文化や大学での学びについてプレゼンテーションをしてもらい、それに対する質疑応答を行った。また、各クラスで企画したレクリエーションを通して、留学生との交流を図った。

(2) 当日展開した内容で特筆すべきこと

単なる交流にとどまることなく、生徒たちが取り組んだ研究計画の発表や調べ学習の発表を組み込むことにより、積極的に実践的な英語を話すことを促した。また、英語のみの交流であったが、教員による原稿や資料のチェックは最小限にとどめ、生徒たちが自分の力で工夫して伝えることを重視した。実践的な英語を使用する機会は本校において貴重であり、積極的に参加することができた生徒が多かった。

(3) 別紙資料(写真等)



7. 学習活動後の成果と課題

生徒の感想文から抜粋し、報告する。

- ・普段の授業では英語を読むこと、聞くことがほとんどだったので、英語で自分たちの研究を発表してみても、英語でコミュニケーションをする際に心がけるべきことを学ぶことができた。自分でははっきりと話しているつもりでも、相手には届いていなかったり、説明が不十分だったりした部分があったので、今回生徒や留学生の方からいただいたアドバイスを今後の課題研究の授業で活かしていきたい。
- ・実際に留学して研究活動をしている方に自分たちの研究発表を聞いてもらい、フィードバックをもらうことができ、とても良い機会になりました。特に、実験において偏りのある箇所や改善点を丁寧に教えてくださり、実際に研究活動を行っている人がどのような点を重視し、どのような点に注目するのかを学びました。

留学生の方のプレゼンテーションでは、留学生の方が高校生の時にどのようなことをして過ごしたのかお

話してくださり、とても興味深かったです。

- ・英語をアウトプットする機会がないなかで、とても良い経験となった。留学生の専攻している学問について留学生の視点から教えてもらい大阪大学に改めて魅力を感じた。
- ・普段の英語の授業とは違い、実際に英語を使ったコミュニケーションや関わりを持てたことは良い機会になったと思いました。私たちが上手く話せない時にも、留学生の方から積極的に話してくださってとても楽しかったです。

全体として、思ったように英語で話せないもどかしさから英語学習への意欲が高まったのは大きな成果であった。「交流会を通して(準備も含めて)英語のコミュニケーション能力を高めるいい機会になりましたか。」という問いかけ(4件法)にも 54.2%の生徒が「とてもなった」、40.1%の生徒が「ある程度はなった」と回答した(334件の回答)。

また、留学生の発表を聞き、他の文化への興味を増した生徒も多いようだった。「留学生さんの話(自国の文化や研究の話など)を聞いて、異文化に対する理解が深まりましたか。」には 58.1%の生徒が「とても高まった」、38.6%の生徒が「ある程度は高まった」と回答した。

8. 国際教育交流センター、大学側への助言、要請および希望

毎年生徒からも教員からも好評であり、価値のある取組みと考えている。英語で発表・交流する機会は生徒たちには貴重な経験であり、2名参加したクラスの方が満足度も高いことから、今後もできる限り多くの留学生に来ていただきたい。2年生の参加もぜひ検討したいと考えている。来年度もぜひ貴大学の国際理解教育活動を利用させていただきたい。

今年度もありがとうございました。

国際理解教育活動報告

関西大倉中学校高等学校
(令和7年12月18日実施)

1. 国際理解教育活動のテーマ

ファッションとSDGs — 私たちにできることを多様な視点から考える —

2. 目標・ねらい

本活動は、大阪大学留学生との交流を通して、生徒がグローバルな課題を自分事として捉え、多様な価値観や視点に触れながら思考を深めることを目的として実施した。

特に以下の点をねらいとした。

- ファッション産業を題材に、SDGsに関わる諸課題(労働、人権、環境、動物福祉等)を理解すること
- 問題の複雑性やトレードオフの関係に気づき、単純な正解のない問いについて考える力を育成すること
- 留学生との英語による対話を通して、多様な視点を受け入れ、自分の考えを表現する力を高めること

3. 派遣留学生への要請内容(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

- 使用言語:英語
- 国・地域:特定の国・地域は指定せず、多様な文化的背景を持つ留学生を想定
- 依頼内容:

生徒のロールプレイおよびディスカッションに参加し、自身の考えや意見を共有すること
日本の生徒とは異なる視点や価値観を示し、対話を深めること

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

事前に活動の趣旨、テーマ(ファッションとSDGs)、生徒の事前学習内容を共有し、当日は生徒の意見に対して率直な感想や意見を述べてほしい旨を伝えた。

特定の結論を導くことではなく、「問いを深める対話」を重視することを確認した。

5. 生徒の予備学習の内容

事前学習では、CLIL(内容言語統合型学習)の手法を用い、以下の内容を段階的に学習した。

- ファッション産業のサプライチェーン
- 児童労働や労働者の人権
- 動物福祉
- サステナブル、エシカルといった概念
- 消費者として私たちに何ができるのか

これらを通して、「私たちができることとは何か」という問いを最終的なテーマとして設定した。

6. 当日の内容

(1) 学習活動の概要

生徒をファッション業界に関わる五つの役割に分け、ロールプレイ形式で意見を整理した。その後、大阪大学留学生を交えて、英語によるディスカッションを行い、「私たちにできること」について多角的に意見交換を行った。

(2) 当日展開した内容で特筆すべきこと

- 留学生からの意見により、生徒がこれまで気づいていなかった視点に触れる場面が見られた
- 生徒の中には、自分の考えが揺さぶられ、新たな疑問や葛藤を抱く姿も見られた
- 一つの正解を求めるのではなく、悩みながら考え続ける姿勢が育まれた

7. 学習活動後の成果と課題

【成果】

- グローバルな課題の複雑さを理解し、多様な視点から考える姿勢が育った
- 英語を「伝えるための手段」として使い、実践的なコミュニケーションの機会となった
- 消費者としての自分の行動を見直すきっかけとなった

【課題】

- 限られた時間の中で、十分に意見を深めきれなかった生徒もいた
- ロールプレイでの立場理解に個人差が見られた

今後は、事前学習での視点整理や、振り返りの時間をより充実させることで、さらなる学びの深化を図りたい。

8. 国際機構国際教育交流センター、大学側への助言、要請および希望

特になし

国際理解教育活動報告

大阪府立茨木高等学校
(令和8年1月18日実施)

1. 国際理解教育活動のテーマ

大阪大学留学生との交流を通して、他国・地域および自国の文化に対する興味・関心を深めるとともに、相互の文化を尊重する態度を育成する。また、英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を養う。

2. 目標・ねらい

- ・少人数のグループ交流を通して、英語で積極的にコミュニケーションを取る力を養う。
- ・留学生との意見交換を通して、国際的な視野を広げ、異文化理解を深める。

3. 派遣留学生への要請内容(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

- ・全行程を通して、基本的に英語を使用して交流を行う。
- ・生徒約10名に対して留学生1～2名が付き、グループディスカッションやゲーム等のアクティビティを行う。

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

- ・当日のスケジュールについて、生徒が英語で説明するとともに、各グループに少人数ずつ入り、実践を交えながら理解を促す。
- ・参加予定のクラスで扱うディスカッションテーマに関して、話す内容のイメージを事前に準備してきていただく。

5. 生徒の予備学習の内容

- ・LHRの時間を活用し、クラスごとに設定したディスカッションテーマについて、事前にクラス内のグループで議論する。
- ・英語S(スピーキング)の授業を活用し、当日を想定して、1クラスにつき教員4名が留学生役となって各グループに参加する。生徒は実際の場面を想定し、質問やディスカッションの練習を行う。その後、各教員から内容・話し方・態度についてフィードバックを受ける。

6. 当日の内容

(1) 学習活動の概要

Session1 (10:00～10:50)

- ・クラスごとに①留学生による自己紹介、②アイスブレイクとして ito というゲーム、③相互の文化に関わる質問のやりとりおよびクラスごとに設定したトピックについてのディスカッション3回転を行う。

Session2 (11:00～12:00)

- ・高校生が別の教室に移動し、①留学生による自己紹介、②相互の文化に関わる質問のやりとり、

③あたまおしりゲームとワードウルフのゲームを英語で行う。

(2) 当日展開した内容で特筆すべきこと

- ・B&S 委員会を立ち上げ、生徒が目標や活動内容を決定し、準備から当日の運営まで主体的に取り組んだ結果、生徒の能動的な参加が見られた。
- ・クラスごとにディスカッションテーマを設定したことで、共通の目標に向かって活動すると同時に、各クラスにおける責任感の向上が図られた。
- ・生徒約 10 名につき留学生 1～2 名とする編成を委員生徒が決定した。事前練習の段階では人数の多さが懸念されたものの、当日は本校生徒が前向きに、楽しみながら英語でコミュニケーションを取ろうとする様子が見られた。
- ・活動終了後の昼食交流は、開始時にやや手間取ったものの、食事が始まると会話を楽しみながら交流する様子が見られた。

(3) 別紙資料(写真等)

本校ブログにて、本プログラム生徒実行委員長のコメントおよび当日の様子を掲載しております。以下の記事をご参照ください。別紙にてその他アンケート結果も共有いたしますのでご覧ください。

<https://www.osaka-c.ed.jp/blog/ibaraki/BLOG-ibnews/2026/01/20-296942.html>

7. 学習活動後の成果と課題

- ・本校生徒アンケートでは 99%の生徒が、「充実し、満足したプログラムだった」と回答し、異文化交流や英語を使う楽しさを感じたとの意見が多く見られた。記述からも、本行事が異文化理解の深化と英語を使うことへの心理的ハードルの低下に繋がったといえる。完璧な英語よりも「伝えようとする姿勢」の重要性を学んだ生徒が多く、今後の英語学習への意欲向上が期待される。
- ・また、B&S 委員が企画・準備・運営に主体的に関わったことで、早期計画の重要性、報連相、臨機応変な対応力、人前で話す力、説明力、責任感やリーダーシップなど、実践的な力が養われた。
- ・一方で、準備や話し合いの開始時期が遅かったこと、ディスカッションや司会、ゲームの通しリハーサルが十分でなかったこと、委員全体での意図や流れの共有不足など、運営面での課題が明らかになった。また、班替えの多さや時間管理の工夫不足により、話題を深めにくい場面も見られた。今後は、練習時間の確保、進捗を共有する定期的な打ち合わせの設定、タイマー表示や移動方法の可視化、英語使用を促すルール設計などを行い、より円滑で学習効果の高いプログラムへと改善していきたい。

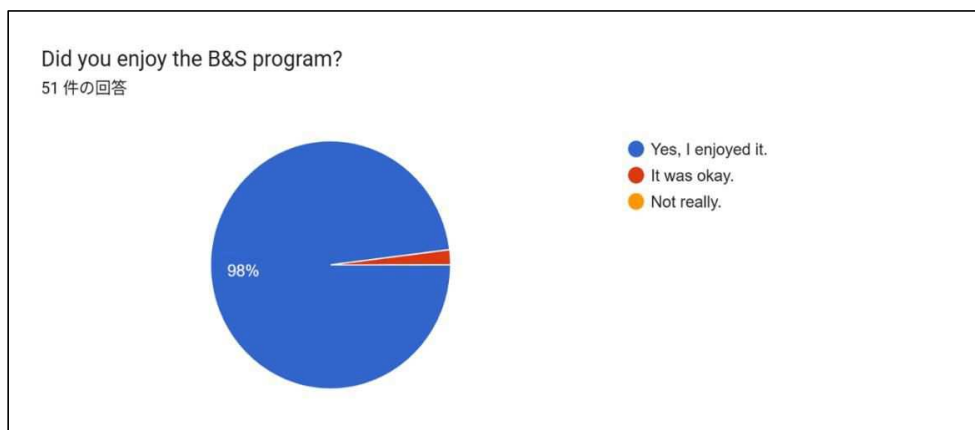
8. 国際機構国際教育交流センター、大学側への助言、要請および希望

- ・留学生の募集や事前打ち合わせ等に際し、多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。本校の「生徒主体」を重視した方針をご理解・ご支援いただいたことに、深く感謝申し上げます。次年度も同様の方針のもとで実施したいと考えておりますので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。
- ・当日は、留学生のみなさまが生徒の緊張を温かく受け止め、積極的に声をかけてくださる場面が多く見られました。次年度は、留学生の皆様からのご意見も参考にしながら、より一層充実した行事となるよう取り組んでまいりたいと考えております。

1. 記録

応募 63 名 (事前欠席連絡 4 名、当日欠席 0 名、当日出席 59 名)

2. 留学生対象アンケート結果



Could you give us any comments that may help us improve this program for next year?

- Make the program longer, especially free talk and discussion time.
- Reduce frequent group changes and allow deeper conversation within the same group.
- Balance games and conversation (fewer games, more meaningful talk).
- Improve facilitation (timekeeper, Japanese name cards, encouraging louder and more active speaking).

Is there any point that you didn't particularly like?

- Very satisfied overall.
- Games sometimes reduced English use, as students focused on winning and spoke Japanese.
- Need more natural English expressions for ending conversations (instead of only “please stop talking”).

Do you have any advice for the students in Ibaraki High School regarding communication in English?

- Speak up, be brave, and use English even if it's not perfect.
- Communicate in English in daily life and increase exposure through movies, videos, music, books, and conversations.
- Think of simple topics and questions in advance, speak clearly and loudly, and use gestures when needed.

3. B&S 委員対象アンケート結果

B&S 委員をやって良かったこと、運営や準備をして学んだ点や成長した点

- 早めに計画を立てることや、本番の想定、報連相、状況に応じて臨機応変に対応することなどの難しさと大切さを学んだ。

- ・人前で話す力・司会・説明力が向上した。
- ・主体性・責任感・リーダーシップが身についた。
- ・立場上、留学生と多く関わられた。
- ・即興で英語を話すことへの抵抗が減り、正しさより伝わる英語を話すことが大切だと分かった。

運営や準備を振り返って、次年度への引継ぎとなる改善すべき反省点

- ・準備・話し合いはもっと早く始めるべき。
- ・ディスカッション・司会・ゲームの実践的な練習や通しリハーサルが足りなかった。
- ・委員全体で意図や流れを十分に情報共有できていなかった。
- ・タイマー表示など、時間管理の工夫が必要。
- ・教室の元の状態の写真を撮り忘れていたクラスがあった。
- ・班替えが多く、話を深めにくかった。
- ・ゲームで大量のカードを使う運営は大変だった。
- ・英語使用を促すルール設計が必要。

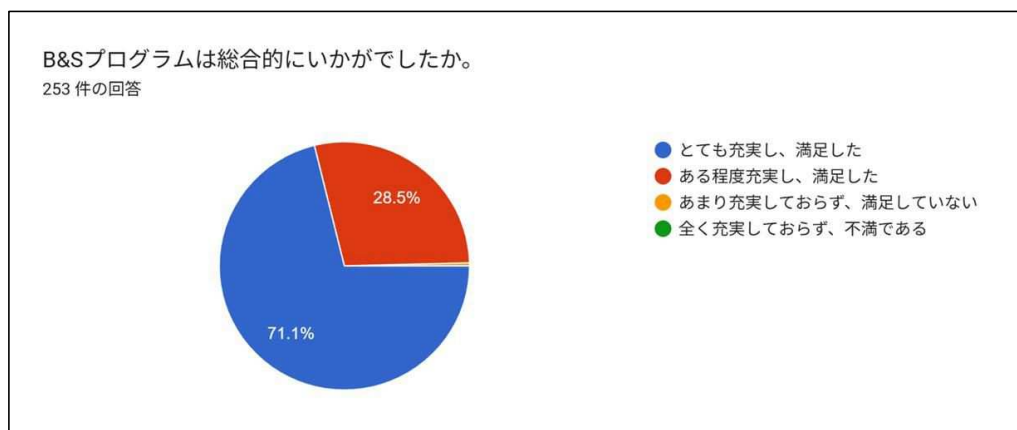
担当教員への要望

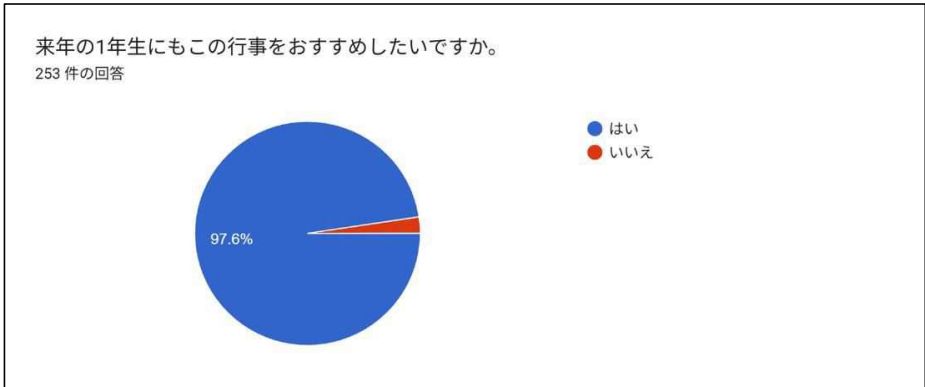
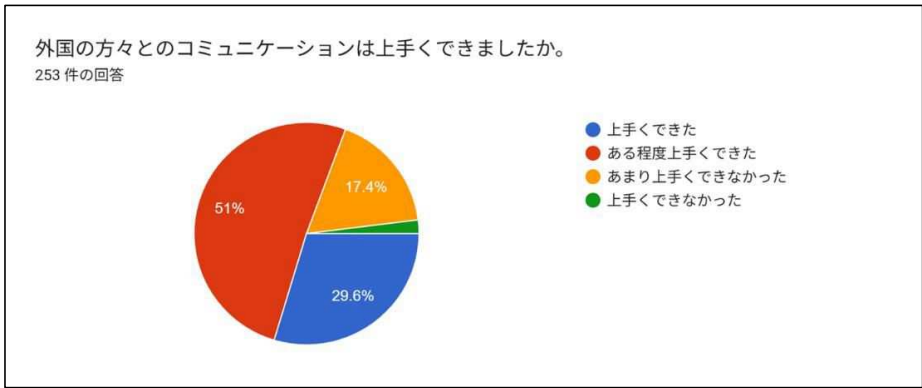
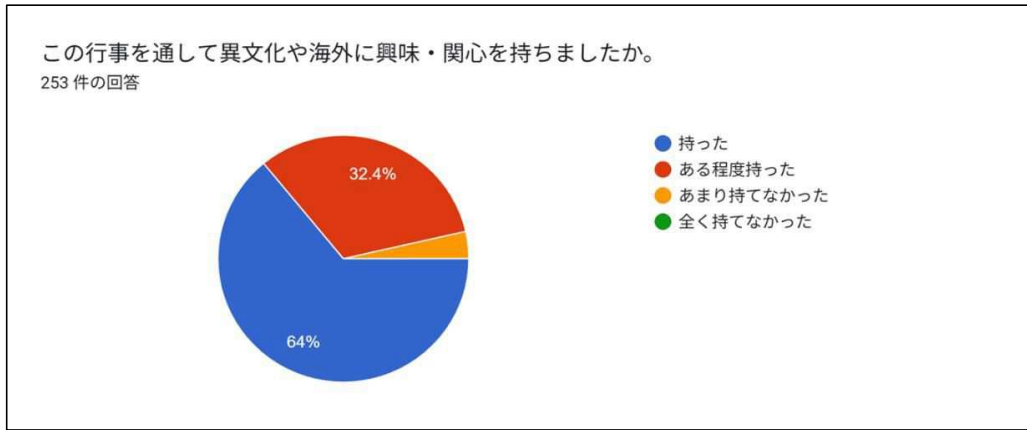
- ・過去の反省や、当日の進行の様子をもっと知るチャンスがあればもう少し全体の雰囲気を掴みやすかった。
- ・練習時間がもう少し欲しかった。
- ・進捗状況を報告できる会議をもっと設けてほしかった。どの頻度で先生方に伝えたらよいのかわからなかった。

その他

- ・緊張したが、最終的には楽しく充実した経験だった。
- ・英語や海外に対する見方・意識が変わった。
- ・生徒と留学生が笑顔で交流している光景が心に残った。
- ・自分一人ではなく、協力して成り立つ活動だと分かった。
- ・自分の成長や英語力などの課題を知ることができた。

4. 生徒対象アンケート結果





B&Sの活動を通して学んだ、他国と日本の文化の違いなど

① 学校生活・教育制度の違い

- 学校の開始・終了時間が国によって大きく異なる(早朝～夜までの国もある)
- 部活動がない国が多い
- 塾がない国もある
- 休み時間がほとんどない学校や、昼寝時間がある学校もある
- 勉強時間が日本より長い国が多い
- 受験制度やテストの仕組みが日本と異なる

② 食文化・生活習慣の違い

- 箸を使わない国が多い
 - 手で食べる文化がある
 - 日本は湯船に浸かる文化だが、多くの国ではシャワーが主流
 - 入浴の回数・時間帯も国によって違う
 - 主食や使う食材が国ごとに異なる
- ③ 挨拶・距離感・スキンシップの違い
- 握手やハグなどスキンシップが多い
 - 初対面でも距離が近い
 - お辞儀以外の挨拶方法がある
 - ジェスチャーを多く使う
 - 相槌やリアクションが大きい
- ④ 時間・マナー・公共の場での感覚
- 日本は時間に正確で、海外は比較的ルーズな国もある
 - 日本の電車が静かで時間通りなのは珍しい
 - マナーや礼儀の基準が国によって違う
 - 日本は安全で清潔な国というイメージが強い
- ⑤ 言語・コミュニケーションの違い
- 多言語を話せる人が多い
 - 英語の発音や訛りが国によって違う
 - ジェスチャーや表情を使った伝え方が多い
 - 完璧な英語でなくても意思疎通できる
- ⑥ 価値観・考え方の違い
- はっきり Yes/No を言う文化が多い
 - 自分の意見をしっかり主張する人が多い
 - フレンドリーでオープンな人が多い
- ⑦ 共通点も多いと感じた
- 日本のアニメ・音楽・流行を知っている留学生が多い
 - 食・音楽・スポーツなど、共通の話題で盛り上がる

B&S プログラムの事前学習(英語 S での活動や、LHR)について、良かった点、気づいたこと、改善点等

- ゲーム・アイスブレイク・ディスカッションを事前に体験・デモしたことで、本番がスムーズに進んだ。
- 先生やネイティブの先生からアドバイスをもらえた。
- ゲームは盛り上がるが、話す量はディスカッションの方が多。
- ディスカッションのテーマ理解を深める時間をとるべき。
- ゲームのルールシートを用意しては。
- 高校生側は名前シールがあると良い。

B&S プログラム当日前半のディスカッションについて、良かった点、気づいたこと、改善点等

- ・留学生が積極的に話題を振ってくれ、雰囲気明るく話しやすかった。
- ・文法が完璧でなくても意思疎通ができた。
- ・留学生がローテーションし、多くの国の人と話せた。
- ・話題を広げたり深めたりすることが難しい。
- ・留学生のサポートに頼りすぎている面がある。
- ・テーマをもう少し深められる内容にする。
- ・生徒側でグループディスカッションの進行役を事前に決めておくといい。

B&S プログラム当日後半のアクティビティについて、良かった点、気づいたこと、改善点等

- ・英語が得意でなくても参加しやすく楽しめた。
- ・ワードウルフは会話力向上につながりやすい。
- ・頭おしりゲームは考える時間が長く、会話が少なくなりやすい。
- ・ゲーム後の雑談や質問が交流を深める。
- ・留学生の移動方法を黒板などで可視化するといい。

その他

- ・留学や海外に行ってみたい気持ちが高まった。
- ・ゲームはルールの簡素化・会話量が増える形式の方がいい。
- ・ランチ会も最初グダっていたが最終的にとても楽しかった。

国際理解教育活動報告

社会福祉法人南友会
幼保連携型認定こども園 かんらんこども園
(令和7年6月11日実施)

1. 国際理解教育活動のテーマ

「世界のこともっと知ろう」

2. 目標・ねらい

- ・世界に通用する国際人育成のため、外国の文化と日本の文化の両方に関心をもてるようにする。

3. 派遣留学生への要請内容(使用言語、国・地域の検討、依頼内容)

- ・子ども達と共に遊んで楽しい時間を過ごして頂ける方。
- ・各国の言語や文化をわかりやすく教えて頂ける方。
- ・色々な国の方を希望します。

4. 派遣留学生との打ち合わせ内容

- ・待ち合わせの時間や場所の確認
- ・活動の内容や流れの説明
- ・1人10分程度でできれば映像や写真、クイズ等を交え、母国の紹介をして頂きたいこと
- ・園で使用できる機器の確認
- ・給食交流もあるので、食べられないものの確認
- ・母国のゲームやダンスをみんなでしたいので、考えて頂きたいこと

5. 生徒の予備学習の内容

- ・派遣留学生の方の名前と国名を覚えたり、興味や関心が持てるように図鑑を観たり、保護者の方にも協力して頂き、その国場所や食べ物、文化、言語、生活習慣などを調べた。
- ・子ども達自身の国日本についても紹介できるように調べたり、発表の練習をしたり、質問の内容を考えたりして準備をした。

6. 当日の内容

(1) 学習の概要

時間	内容	活動の様子
10:00	<ul style="list-style-type: none"> 園児による歌舞伎体操と歌「世界中の子ども達が」と「大きな古時計」の披露 	
10:15	<ul style="list-style-type: none"> 留学生の方に自己紹介をして頂く (住んでいる場所や有名な食べ物、民族衣装や「ありがとう」「こんにちは」などの簡単な挨拶など) 	
11:00	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が日本について紹介する。 (食事、お茶、家、生け花や合気道などの文化) 	
11:10	<ul style="list-style-type: none"> 記念撮影をする 	

11:20	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶を振る舞う。 	
11:35	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を食べる。 	
12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを一緒に楽しむ 	
12:30	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生におわかれの挨拶をしてもらい、お礼のプレゼントを渡す。 	

7. 学習活動後の成果と課題

- ・事前に留学生の方々の国について調べることで子ども達が興味を持ち、新しい国についても知るきっかけとなりました。
- ・昼食後に留学生の方々に国のゲームを教えてもらい一緒に行くことで留学生の方々とふれあい、みんなで楽しい時間を過ごす事ができました。
- ・日本の文化や園での活動を改めて確認して深めることができました。
- ・パワーポイントで国の遺産や挨拶を教えてもらい子ども達がより留学生の方々の国について興味をもつきっかけになりました。

8. 国際機構国際教育交流センター、大学側への助言、要請および希望

- ・パワポでの話は、子どもにとって難しく感じる場面が多くあり、集中が途切れてしまう姿が見られていました。話を聞くだけでなく、簡単なあそびを紹介してもらったり、様々な国の挨拶を知る時間を長く持ったりと、興味が深まる内容であれば、楽しく参加できると思います。
- ・留学生の方は、子ども達の言葉を丁寧に聞いてくれ、子ども達にとってとても貴重な体験になりました。打ち合わせ等も丁寧に対応してくださりありがとうございました。今後も継続して国際理解教育活動を行っていきたいと思っているので何卒よろしくお願い致します。

令和6年度「国際理解教育」実施状況

月	日	学校/プログラム名	派遣人数	派遣学生出身国・地域
6	10	かんらんこども園	4	インド、ベトナム、ウガンダ、ドイツ
9	10	兵庫県立川西北陵高等学校	7	ミャンマー、ナイジェリア、インド、フランス、ケニア アメリカ
11	1	茨木市立三島中学校*	5	ベトナム、タイ、パキスタン、中国、ナイジェリア
11	13	茨木市立南中学校*	5	パキスタン、韓国、台湾、タイ、ハンガリー
11	15	川西市立明峰中学校*	5	バングラデシュ、ホンジュラス、ナイジェリア、ベトナム イラン
11	29	吹田市立第六中学校*	4	バングラデシュ、ベトナム、パキスタン、イラン
12	6	能勢町立東能勢中学校*	4	イギリス、台湾、インドネシア、フィンランド
12	9	茨木市立東雲中学校*	4	ロシア、ウガンダ、イギリス、台湾
12	19	関西大倉中学校高等学校	17	バングラデシュ、インド、ロシア、フィンランド、台湾 スリランカ、ナイジェリア、フィリピン、インドネシア イラン、イギリス、ベトナム、アメリカ、南スーダン
1	17	大阪府立豊中高等学校	29	韓国、バングラデシュ、ナイジェリア、イラン、中国 ベトナム、南スーダン、ホンジュラス、パキスタン ハンガリー、ロシア、イギリス、フランス、フィリピン マレーシア、アメリカ、タイ、ドイツ、メキシコ
1	18	大阪府立茨木高等学校	44	イギリス、バングラデシュ、パキスタン インド、韓国、台湾、ペルー、イラン、ホンジュラス ナイジェリア、ハンガリー、中国、ベトナム、キューバ 南スーダン、ウズベキスタン、ロシア、ウガンダ、フランス インドネシア、メキシコ、セルビア、ミャンマー マレーシア、ドイツ、ラオス、エチオピア、アメリカ
2	6	大阪府立住吉高等学校	8	ベトナム、バングラデシュ、南スーダン ロシア、ベトナム、イラン、ハンガリー
2	8	大阪府立千里高等学校	11	イラン、中国、ペルー、ナイジェリア、セルビア、ロシア パキスタン、ベトナム
2	20	能勢町立能勢ささゆり学園*	10	バングラデシュ、ウガンダ、エチオピア、フランス パキスタン、インドネシア
3	10.12	関西大倉高等学校	2	ベトナム

計： 15件/ 159名

* 教育委員会経由の申し込み

令和7年度「国際理解教育」実施状況

※「/」は二重国籍

月	日	学校/プログラム名	派遣人数	派遣学生出身国・地域
6	11	かんらんこども園	4	イラン、中国、イギリス、タイ
7	16	吹田市立片山小学校*	6	ウガンダ、中国、ナイジェリア、イギリス、インドネシア 台湾
9	11	兵庫県立川西北陵高等学校	5	バングラデシュ、タイ、イラン、台湾、フランス
9	24-26	報徳学園中学校	20	バングラデシュ、ウガンダ、インド、エチオピア、ベトナム ガーナ、イラン、南スーダン、コンゴ、ブラジル、エジプト インドネシア、パキスタン、中国
10	23	箕面市立第五中学校*	6	ガーナ、イラン、タイ、ナイジェリア、ホンジュラス、中国
11	14	豊能町立吉川中学校*	4	タンザニア、ナイジェリア、台湾、中国/カナダ
11	27	大阪府立住吉高等学校	8	韓国、台湾、バングラデシュ、イギリス、ガーナ、スペイン インドネシア
11	28	豊能町立東能勢中学校*	4	ウガンダ、イギリス、韓国、ドイツ/スペイン
12	18	関西大倉中学校高等学校	21	フランス、中国、インドネシア、バングラデシュタイ、 スペイン/ドイツ、ナイジェリア、タンザニア、コンゴ、台湾 ブラジル、エジプト、ベトナム、中国/カナダ
1	16	大阪府立豊中高等学校	36	ベトナム、中国、バングラデシュ、イギリス、韓国、台湾 ガーナ、フランス、オーストラリア、中国/カナダ ハンガリー、カザフスタン、スペイン/ドイツ、ナイジェリア 南スーダン、シンガポール、インドネシア、スロベニア ブラジル、エジプト、ミャンマー、イラン、パキスタン カナダ
1	17	大阪府立茨木高等学校	59	中国、フランス、ブラジル、バングラデシュ 韓国、ベトナム、イラン、カナダ、ナイジェリア、台湾 インドネシア、スロベニア、スペイン/ドイツ、ルワンダ インド、ウガンダ、エジプト、モンゴル、マレーシア カザフスタン、タイ、ペルー、イギリス、オランダ フィリピン、ミャンマー、中国/カナダ、ハンガリー
1	20	能勢町立能勢ささゆり学園*	6	エジプト、バングラデシュ、ベトナム、台湾、フランス カザフスタン
2	20	関西大倉高等学校	1	ベトナム

計： 13件/ 180名

* 教育委員会経由の申し込み



The University of
Osaka